

あらゆる職場に「損保革新懇」の風を吹かせよう

一、この3年間を振り返る

私たち大阪損保革新懇は3年前の10月、全国革新懇の掲げる「平和・民主主義・生活向上」の革新3目標に「損保産業の民主的なあり方を求める」を付け加え、この方針を支持する多くの仲間によって結成されました。あれから3年、世界・日本・金融・損保など私たちが生活する周辺の情勢と事情はいつそう激動・激変しています。この間、私たちは新しい革新懇ながら力一杯奮闘してきました。

第2回総会には経済同友会元副代表・日本火災相談役の品川正治氏を迎え、『二十世紀の経済社会と損害保険産業の新しい進路』の記念講演で、大きな成功を収めました。昨年の第3回総会には宗藤泰而弁護士を迎えました。『二十世紀、人間らしくどう生きる』記念講演に参加した186名の仲間は感動しました。

私たちは以上の3回の記念講演、2回のシンポジウムをはじめ、○『川田悦子さん』働くとは、生きるとは』講演会』○『林直道大阪市大名誉教授』どうなる日本経済』講演会』○『長野晃氏』大阪のダイオキシンは大丈夫か』環境問題勉強会』○『天王寺高校森本先生』いま、高校は』教育問題勉強会』○『映画』プラス』上映会』などを取り組み、さらに1999年と今年の2回にわたる『8月6日広島平和祈念ツアー』には多くの中学生・小学生も参加し、彼らは平和への感想・決意を語ってくれました。この3年間、私たちが取り組んださまざまなイベントにのべ2500名以上の仲間が参加し、新しい大阪損保革新懇運動を支えていただきました。『大阪損保革新懇ニュース』も26号まで発行し、『全国革新懇ニュース』『大阪革新懇話会だより』とともに会員仲間に配布できました。

いま、私たちを取り巻く情勢を見る時、もっと仲間を増やし、もっと損保の民主化課題に取り組み、もっと広範な国民・市民的要求を取り上げ、革新目標の実現と前進に奮闘することが求められていると痛感します。

二、どうなる世界と日本、損保に働くものは

金融ビッグバンが進む中、損保産業とそこで働く仲間の状況も激動・激震の最中にあります。大型合併・統合が進行し、来年四月には最大手グループの「ミレア・グループ」「損保ジャパン」二社が誕生します。

私たちは毎回の総会アピールで『損害保険のすべての労働組合と組合員が損害保険で働くすべての人たちの雇用と労働条件を守り、損害保険の民主的な発展に努力・奮闘されるよう協力・共同していきます』という方針を確認しています。あらためてこの方針を確認し、闘う労働組合と仲間との協力・共同関係を強化しなければなりません。

三、さあ！いよいよ革新懇の出番、あらゆる職場に「損保革新懇」の風を吹かせよう

私たちが3年前、大阪損保革新懇を立ち上げた時は全国で529番、大阪で84番目でした。3年後の今日、全国の革新懇は693、大阪では125に増え、地域・職場で活躍しています。損保でその後、高松（倉松山）・金沢・新潟・千代田で革新懇が結成され、現在複数のところ準備が進んでいます。

私たちの大阪損保革新懇は20を超える企業と300名の仲間組織されています。所属する企業や所属する労働組合を問いません。組合経験の有無も関係ありません。現役・OBも関係ありません。もちろん、思想・信条の違いも問いません。会則の中で「自分に合わない活動は強要・強制はしません」を掲げる懇話会です。

いま、損害保険産業で進んでいる状況や事態に不安や要求や意見を持っている人は多くいます。私たちは「いよいよ革新懇の出番だ」と確信しています。なぜなら、いま損保産業で起きている事態は産業界内・企業内・産別組合・個別組合の中だけで解決できるものは少なくなってきたからです。損保産業は競争で発展する産業ではありません。世界と日本の平和や日本経済の健全な発展と国民生活の向上とともに地道に成長し、またこの発展と向上を支える産業です。私たち大阪損保革新懇は小さな新しい組織ですが、この存在と掲げる目標と当面の活動を多くの仲間呼びかけていきます。私たちは「さあ！いよいよ革新懇の出番、あらゆる職場に「損保革新懇」の風を吹かせよう」を合い言葉に、四年目の活動を積極的に展開していきます。多くの仲間がこの運動に参加されるよう心から呼びかけます。

2001年10月19日

(二十世紀の平和・民主主義・革新と損保の民主化をめざす大阪損保革新懇話会)